

（2）予測ばく露量（EP： *Exposure Prediction*）の推定

① （1）で特定された化学物質又は粉じんについて、その取扱量（1バッチあたり又は一日の使用量であり、ばく露量や化学物質の飛散・発散量ではない。）と揮発性・飛散性がそれぞれ表3-3、表3-4のどの区分に該当するかを確認します。

表3-3 取扱量の区分

| 区 分 | 取 扱 量 の 目 安 |
|-----|-----------------------------|
| 大 量 | トン、kl 単位で計る程度の量 例：砂、溶湯 |
| 中 量 | kg、l 単位で計る程度の量 例：クローム添加剤 |
| 少 量 | g、ml 単位で計る程度の量 例：アセチレン |

表3-4 揮発性・飛散性の区分

| 区 分 | 揮 発 性 ・ 飛 散 性 の 目 安 と 例 |
|-------------|---|
| 高揮発・ 高飛散 | 高揮発性液体（沸点 50℃未満）、高飛散性固体（微細で軽い粉じんの発生する物） 例：アセチレン、粉じん |
| 中揮発・ 中飛散 | 中揮発性液体（沸点 50 - 150℃）、中飛散性固体（結晶質、粒状、すぐに沈降する物） 例：メタノール、潤滑基油（防錆油） |
| 低揮発・ 低飛散 | 低揮発性液体（沸点 150℃超過）、低飛散性固体（小球状、薄片状、小塊状） 例：アンチモン、クローム添加剤（クロム）、キシレン（防錆油） |

② ①で確認した区分を表3-5に当てはめ、予測ばく露量を推定し、その予測ばく露量を「4 リスクの見積り」の「予測ばく露量（EP）」欄に記入します。